Book INFORMATION

中央公民館
図書室からの
お知らせです

ほん大好き

中央公民館図書室☎42局7200番

あたたかいふれあいのひとときを。

ブックスタート

ブックスタート。それは、絵本を通して、家庭内で赤ちゃんと「あたたかい、ふれあいの時間」を持つきっかけを作るための取り組み。どこの家庭でもすぐに絵本を開いて楽しんでもらいたい。そんな願いを込めて、4か月健診時にすべての赤ちゃんに同じ絵本が入ったブックスタートパックを差し上げています。

◉4月23日は「子ども読書の日」

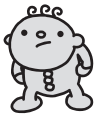
中央公民館図書室では、4月23日の「子ども読書の日」にちなんで、次のとおり「子どものオススメ絵本」を展示します。普段は手にすることの少ない子どもたちの本。ぜひこの機会に手にとってみてはいかがですか。（展示期間中は、展示本の貸し出しはできません）

●**とき**　4月15日（月）から5月6日（月・振休）まで
●**ところ**　中央公民館ロビー

◉なぜ絵本なの？

赤ちゃんには「自分は大切な存在である、愛されている存在である」と思える体験が大切だと言われています。赤ちゃんを抱いて語りかけ、顔を見て、一緒に楽しいひとときを過ごす。絵本にはそんな体験を、同時に、そして、だれもができる良さがあるのです。

◉赤ちゃんに絵本は早いのでは？



赤ちゃんにも好きな絵や音、色があるように、絵を見つめたり指さしたり、読んでくれる人をじっと見つめて声に耳を傾けたりと、赤ちゃんなりの絵本の楽しみ方があります。同じ絵本、同じ絵なのに、その反応は一人ひとりさまざま。そんな赤ちゃんの姿を見ている大人も楽しくなります。

Share Books

大好きな人との時間を絵本で分かち合う。みなさんで楽しんでみてはいかがですか。

今月**新しく**入りました。

※4月の新刊は、1日（月）から貸し出します。

一般の本

キンモクセイ（作＝今野　敏）
コヨーテの翼（作＝五十嵐貴久）
跳ぶ男（作＝青山文平）

子どもの本

うかいのうがい（作＝さくらせかい）
スグ効くおやすみ絵本（作＝弥永英晃）
やまのおなか（作＝ちえちひろ）

中でもこの本が**オススメ**です。

海近旅館

作＝柏井　壽

海野美咲が半年前から若女将を務める静岡県伊東市の旅館は、海が近いだけが取り柄で、サービス、施設ともにいまいち。お盆休みのピーク期でも満室にならない体たらくが続いていた。名女将だった母に、おんぶに抱っこだった父も兄も頼りにならない。それでも宿を一生懸命切り盛りする美咲に、不思議な出会いの数々が訪れる。

おおかみのおなかのなかで

作＝マック・バーネット

ある朝、ねずみがおおかみに会いました。そして、ぱくっと食べられてしまいました。ねずみがおおかみのおなかの中で泣いていると、「しずかにしてくれよ！」とどなり声。おなかの中に誰かいるの？おおかみのおなかの中で、いったい何がおこるのでしょう？

／4月の休館日は、3日（水）です。また、6日（土）、7日（日）、20日（土）、21日（日）は選挙のため臨時休館となります
／開館時間は午前9時から午後5時まで／返却期限が過ぎている本は、至急ご返却ください

今村地域連携室副師長の
調子はいかが？
くらて病院スタッフからの健康アドバイスです

くらて病院☎42局1231番

Health ADVICE

病院の中にある「地域連携室」って何ですか？（40歳・女性）

地域連携室とは

地域連携室は、地域医療の窓口として入退院時や外来診療時に、地域の医療機関・行政組織等と連携しながら患者さんに切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるよう支援・調整を行う部署です。看護師や社会福祉士が在籍し、他の医療機関からの入院・転院調整、退院支援・退院調整、患者さんやご家族からの相談業務等を行っています。

医療連携と福祉相談

地域連携室の業務は大きく2つに分けることができます。1つ目は、地域の病院や診療所との連携を図るためのさまざまな業務を行う「医療連携」です。2つ目は、患者さんやご家族が抱える療養上の問題に対して相談に応じながら共に考える「福祉相談」です。

医療連携では、入院・転院調整、退院支援・退院調整、医療機関への外来受診予約などを行っています。内容は多岐にわたり、人と地域（クリニックやサービス提供事業者等）をつなぐコーディネーターの役割を担っています。

福祉相談では患者さんやご家族が安心して療養生活を送ることができるように不安や心配事の相談を受け付けています。時代は「ほぼ在宅、時々入院」と言われるように、療養生活の場は病院から在宅へ変化しています。入院中に退院後の生活に不安を感じ地域連携室を訪ねてこられる方には、個別にお話を伺っています。患者さんやご家族の思いをできる限り伺い、状況に合った生活環境を検討・提案し、地域サービス・社会資源との連携・調整を行い退院につないでいます。退院後、何らかの支援が必要となった方でも、住み慣れた家で、安心して暮らせる環境作りのお手伝いをしています。

困りごとがあれば気軽に地域医療連携室へ

担当者は守秘義務が課せられているため伺った内容が外部に漏れることはありません。患者さんやご家族が抱える医療的・社会的・経済的問題の「困った…」も、皆で考えれば良い知恵が浮かんで、問題解決につながるかもしれません。

当事者だけで悩み事を抱えることはとても苦しい事だと思います。「困った…」と思うことがあるときには、かかりつけ病院の地域連携室に声をかけてみてください。

地域連携室は、看護師や社会福祉士が在籍する病院の部署の一つで、患者さんやご家族が抱える医療的・社会的・経済的問題の解決のため、医療連携、福祉相談を行っています。

【アドバイザー】
今村美千代・いまむらみちよ・平成18年鞍手町立病院勤務。平成29年4月より、くらて病院地域連携室副師長。